

つながれば、やさしくなるよ

そのだ ひさこ

どんな言葉も失ってしまうような出来事が日々、今も枚挙にいとまなく起こっている。なぜ？ どうしたら？ どこにも、答えも特効薬もない。それでも、やっぱり言葉を探してしまう。子どもが大好きで命や人権にこだわってきた私(たち)は止まら(れ)ない。長年互いに温めてきたことを、やっとな今少し形にしようとしている。今年4月、手探りしながら小さな会をスタートさせた。

それは、「いのちの花・サロン」と名付け毎月第3金曜日の夜に行っているやさやかな自主学習会である。誰でも来る事ができる。寄りあいである。とりあえず、現場の教員、元教員有志で始めているが、保護者や、主婦や地域の方など、どんな方々にも開かれている。参加した人がサロンの住人であり、自分のテーマや悩みを問題提起できる会である。

一回目の問題提起者は私であり、テーマを「つながれば、やさしくなるよ」として、子どもの仲間づくり・集団づくりの問題を具体

的に取りあげた。子どもと子どもをつなぐ仲間づくりの営みは、授業づくりとともに教育に不可欠の柱である。いじめによる自殺が報じられるたびに、同じ空間・教室にいるたくさんの子どもたちにも友だち一人もいかなかったのか！と声をのむ。あるいは、それに気づけない教育(員)は何なのか、気づけないのは何故か。悲しみと怒りが噴き出す。命は帰ってこない！

問題行動をくり返し起こす子どもにどうブレーキをかけ、変えていくか。いろいろと低学力に陥っている子の学力保障をどうするか：どういふ問題を解決していくにも、教員一人や数人の力だけでは不可能である。

英語のアルファベットも書けない生徒のAさんのノートを毎日みて花丸をする。たどたどしかったものがだんだんとくつきりとした文字になってくる。算数のかけ算の九九を二の段からやったノートを毎日見る。これはいじめの対象になっていた低学力の子の学力

アップの取り組みの一例である。効果は少し現れるが、教員一人の力では絶対的に足りない。一人でやりつづけてみれば一人(教員)の力がどんなに微力であるか！ということが、たちまち分かる。AさんとBさんをつなぎ、BさんとCさんをつないでいく。「ヘルプ・ミー！」(私に力を貸して！)はいつも子どもたちに発する私の合い言葉だった。私一人では一人にしか教えることができないが、教える(助け合い)学習が少しずつ広がって：十人が十人に教えるようになれば、力が十倍になる！教える側の子の学力もつく。じりじりと「つなぎ」続けてふと気づくとクラスの空気が優しくなっていて胸が熱くなった。

私は優しくなっていく子どもたちに支えられ助けられた。子どもたちは私の誇りだった。もちろん、それぞれの教科の授業の充実が前提であることは、言うまでもないが。

●TUNAGU IIとは 人権尊重のまちづくりの一環として、さまざまな人権問題について市民の皆さんと共に考えるために、そのだ ひさこ先生(福岡県人権研究所理事、九州大谷短期大学講師)に執筆していただき、偶数月1日号に掲載しています。タイトルの「TUNAGU」には、人と人、心と心をつなぐ、世界とつなぐなど、「共生」と「人権」の時代の到来を願う歴代の執筆者の思いが込められています。

●問い合わせ先 教育政策課 人権・同和教育担当